

中期ビジョン（5か年計画）

I 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

本校は、秋田県で県立初の中高一貫教育校として平成16年度に開校し、平成26年に創立10周年の諸事業を終えた。これまでの成果を振り返り、新たな10年を見据えて、学校として大切に考えていきたいことは次の4点である。

- 1) 県南地区唯一の中高一貫教育校であり、全国初の工業系学科をもつ中高一貫教育校であることの魅力を増すために、生徒一人一人の進路実現を通じた、進路実績の向上が課題となる。グローバルな視点を育み、ものづくりの魅力を実感し、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の成果である探究活動による課題解決能力をもった生徒たちが、高い志をもって、進学や就職を目指すことのできる学校でありたい。
- 2) 中高一貫教育校として、生徒の能力や学力を伸ばさせるために、本校ならではの中・高の接続が課題となる。6年間を見通した教育課程の編成や部活動指導など、他の中学校・高等学校にはない利点を生かしながら、本校の中学校から入学した生徒と高校から入学した生徒が競い合い、高め合う環境をつくり、校訓「切磋琢磨 学べ 競え 望め」を実現できる学校でありたい。
- 3) 生徒が自分の適性を見つめ、希望進路を実現していくために、より一層キャリア教育を充実させていくことが課題となる。本校独自に作成した6年間を見通したキャリア教育の全体計画により、共通認識を持って、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を育成する実効性のある取組を展開し、その成果を検証していくことのできる学校でありたい。
- 4) 少子化の進行に伴い、地域の小・中学生数が減少し、小・中学校の統合も進められていることから、中学校、高等学校の入学定員の確保が課題となる。本校の魅力を地域に発信したり、小・中学校との連携を強化したりすることにより、小・中学生やその保護者に中高一貫教育校として、他校にはない本校の教育実践とその成果を体験できる機会を提供できる学校でありたい。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

第七次秋田県高等学校総合整備計画では、今後9年間の小・中学校の卒業生数の予測が示され、平成28年度と比較して、令和3年度は県南地区で、小学校卒業生は236名、中学校卒業生では289名減少する。このことは、本校における生徒確保の取組に大きく影響を及ぼすものと考えられ特色ある学校づくりを進めていかなければならない。このような状況の中、本校の中学校には目的意識を早期に持たせる教育が、高等学校には、生徒の希望進路実現に向けたきめ細かな指導と進路実績の継続・発展が求められるものと予測される。

I 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

3 目指す方向性や学校像

本校の教育目標は「21世紀を主体的に生き抜く人材の育成」であり、本校が目指す学校像は次の5点である。

- (1) 励まし、思いやり、支える言葉に満ちた学校
- (2) 国際化・情報化に対応できる学校
- (3) 地域環境に関する学習を大切にする学校
- (4) ものづくりを通して豊かな心を育む学校
- (5) 地域に開かれ、地域とともに発展する学校

実現に向けては「探究心を育み21世紀を生き抜く教育」、「ものづくりによる人間教育」、「国際化、情報化に対応した教育」を柱に、探究心や課題解決能力、豊かな心と自己管理能力、また、向上心やコミュニケーション能力の育成に努めていく。中高一貫教育校としての特色を生かし、6年間を見通した教育活動全体によって思いやりの心を培うとともに、自らを律し心豊かにたくましく生きる力を育成する指導を充実させる。

- 1) 普通科においては、平成27年度までのSSH事業で成果をあげた探究活動と創立当初から力を入れてきた国際教育を今後も充実させていく。生徒は、自ら疑問をもち、習得した知識を活用して考察し、ときには協働し、もたらした結果を発信できることを目指す。それは、科学的分野のみならず、あらゆる分野でリーダーシップを発揮できる人材を輩出することにつながる。また、海外留学や英語外部試験の受験を奨励し、国際社会に目を向けた広い視野を持つ、外国語に高い関心と能力を有する人材の育成を進める。
- 2) 総合技術科においては、小、中、高の連携を重視したものづくり教育を推進することによって、一層の地域貢献に努める。さらに大学、関係機関との連携により、資格取得指導、先端技術指導を通して高度なスキルを備えたものづくり人材を育成し、優良企業や地域から得ている高い評価を維持・向上していく。
- 3) 中学校においては、探究活動を系統的、組織的に充実させ、高校の探究活動へとつなげる探究心の萌芽と探究力の育成に努める。また、国際教育の一層の充実を図り、高校において留学できる力を育成する。中高一貫教育の利点を生かした、他校にはない体験型プログラムを取り入れるなど、特色ある活動を展開していく。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

- 1) 探究活動の推進による進学実績の実現
国公立大学合格者50名、医学部医学科を含む難関大学へ複数の合格者
- 2) 国際教育の推進
中学生英語検定3級以上全員合格、高校生英語検定準2級以上全員合格
毎年1人以上の海外留学の派遣と留学生の受け入れ
- 3) ものづくり人材の育成
将来、日本や地域社会に貢献できるものづくり人材の育成を図るとともに、ジュニアマイスターゴールド、ジュニアマイスターシルバーの取得率で全国トップを目指す
- 4) 中学校と高校の接続の充実
中高一体となった探究型授業への授業改善による学力の向上
全県ベスト4以上に複数の団体競技、全国レベルの選手を毎年輩出

Ⅱ 具体的な取組等

1) 探究活動の推進による進学実績の実現

SSH指定を通して取り組んだ探究活動による探究心の育成は問題解決能力への育成につながり、その効果が学習活動に好影響を及ぼしてきた。この探究活動を中学校から6年間を通じた学習活動の柱として充実させ、これまで同様、英語教育にも力を入れながら、早い段階から大学への進学意識を明確にした取組を継続的かつ系統的に行う。

探究活動では中学校における「探究ジュニア」、高校における「探究基礎」、「探究」を推進し、情報を受け取る力（情報収集力）、受け取った情報をもとに考える力（思考力）、試行の中からの確に判断する力（判断力）、自分の考えを他者にわかりやすく表現する力（表現力）などの能力の育成に努める。



2) 国際教育の推進

本校では平成18年度以来韓国ジョンバル高校と姉妹校関係を結び、相互交流を行ってきた。また、創立当初から英語教育に力を注ぎ、韓国語の授業も開設し、国際教育の推進に努めてきた。今後は、中学時代から留学を意識させる取組を展開し、英語教育を一層強化し、国際交流活動への積極的な参加などにより、国際的視野を持つ生徒の育成を進める。



3) ものづくり人材の育成

優良企業や地域から高い評価を得ている総合技術科の充実やものづくりによる人間教育を目標に、中学校からの系統的なものづくり教育と、地域に密着した取組を展開する。具体的には、地域イベントへの協力や小学生、中学生への技術指導、教材製作についての指導者講習会を実施する。また、大学や関係機関等の出張講義を積極的に活用するとともに本校施設設備を開放し、他高校生や中学生・教員等に対する技能指導について検討する。資格取得については、これまでになかった難易度の高い検定への挑戦も視野に入れる。



4) 中学校と高校の接続の充実

中高一貫教育校の利点を生かし、学習面においては学力認定テストを実施することによって習熟の深化を図り、中・高の接続時に、より一層学習意欲を向上させる。また、さまざまな角度から授業改善の取組を行い、中高一貫教育の質の向上を図る。特別活動面では中学から育てる継続的な指導にも力を入れ、各運動部、文化部の充実強化を図る。

